

2021年1月30日

2020年度聖路加国際大学大学院看護学研究科

課題研究

**身体合併症のある重度精神疾患を持つ人の**

**療養場所の選定に関する文献レビュー**

**リエゾン精神看護専門看護師の機能についての考察**

A literature review on people with severe mental illness  
and physical complications deciding where to live – a discussion  
focused on the role and functions of psychiatric liaison nurse specialist

19MN006

大石 麻紀

## 要旨

### 【目的】

本研究の目的は、身体合併症のある重度精神疾患を持つ人の療養場所の選定に関するリエゾン精神看護専門看護師の支援に対する示唆を見出すことである。

### 【方法】

身体合併症のある重度精神疾患を持つ人の療養場所の選定に影響を及ぼしていると考えられる要因、および実践されている支援の内容に焦点を当てて文献レビューを行った。対象文献の分析は、テーマ分析を用いて行った。

### 【結果・考察】

電子データベースによる文献検索を行い、18文献が対象となった。対象文献を分析し、療養場所の選定に影響する要因として、4つのテーマと9つのサブテーマが見出された。4つのテーマとは、【本人の希望】【周囲の不安や懸念】【周囲の前向きな思い】【支援体制の構築】であった。療養場所の選定に対して実践されている支援について、3つのテーマと8つのサブテーマが見出された。3つのテーマとは『本人の希望を支えるための支援』『周囲の不安に対する支援』『周囲の懸念に対する支援』であった。

療養場所に対する【本人の希望】が表明されることにより、【周囲の前向きな思い】あるいは【周囲の不安や懸念】が生じていた。【周囲の不安や懸念】は、家族や支援者の＜支援に対する自信の無さ＞から生じ、また、以前のように＜迷惑をかけられるという思い＞や、本人の安全が守られないのではないかと、という＜リスクに対する懸念＞から、＜支援体制の限界＞に関連し、本人の希望する療養場所の選定を抑制する要因となっていた。

【本人の希望】から支援の方向性が逸れてしまいそうな時とは、家族や支援者が、本人は希望した療養場所で安全に過ごすことができないのではないかと、＜リスクに対する懸念＞が高まった時であった。そのような時の支援として、本人の希望が尊重されるように、本人のストレングスに焦点を当て、支援の方向性が、【本人の希望】を制約することとなっていないか把握することが必要であると示された。そのためには、【本人の希望】を擁護する支援者の存在が必要となることが示された。

【周囲の不安や懸念】が生じている場合には、本人の希望と家族や支援者の意向や思いが異なり、価値の対立が起こっている状態と考えられた。本人や家族、支援者間の価値の対立を調整しながら、支援していくことは困難を伴うことが推察される。そのため、リエゾン精神看護専門看護師の機能として、「倫理調整」を用いることで、支援者を支援していくことができると考えた。

### 【結論】

リエゾン精神看護専門看護師は、「倫理調整」の機能を用いて、身体合併症のあるSMIを持つ人の支援を行っている支援者を支援することを通して、本人の希望を尊重した療養場所の選定を支援していることが示唆された。